

追加処分に関するペナルティ・ガイドライン

このガイドラインは、あくまでも最低の試合数を定めたものであり、レフェリー報告書をもとに反則の状況、内容、程度により、懲戒委員会において十分に検討を行い、自動的な追加処分の範囲を超える場合は、さらに追加処分を加えることが出来るものとする。

ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科せられた選手・役員			
反則	条項	反則の内容	自動的な追加処分
		本ガイドラインにおいて提示する項目に当てはまらないゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ。	0
ABUSE	39. 5-I	ミスコンダクト・ペナルティを科された後も、オフィシャルの裁定に異議を唱え続けるプレーヤー。	1
	39. 5-II	ベンチ・マイナー・ペナルティを科された後に、プレイヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者が、オンアイス・オフアイス・オフィシャルに対して、卑猥な、冒瀆的な、または乱暴な言葉やジェスチャーを使用したり、オフィシャルの名前を大声で叫んだりした場合、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。試合終了後に氷上またはそれ以外の場所でこの行為があった場合には、それ以前にベンチ・マイナー・ペナルティが科されていなくても、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。	5
	39. 5-III 40. 1	いかなる方法であれ、オフィシャルに対して故意に身体的な力を加え、その行為がオフィシャルに負傷を与える可能性があった場合、身体的に品位を落とした場合、または口論の最中または直後に当該オフィシャルから自由になることのみを目的として故意に身体的な力を加えたプレーヤーは、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。	10
	39. 5-IV	ペナルティ・ボックスに入ったプレーヤーが、オフィシャルの裁定に抗議する目的で、ペナルティの終了前にペナルティ・ボックスを離れた場合、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。	1
	39. 5-VI	レフェリーの判定に抗議して、スティックやその一部、その他の用具や物を競技エリア外に投げ出したプレーヤーには、「アンスポーツマンライク・コンダクト」のマイナー・ペナルティと、ゲーム・ミスコンダクトが科せられる。	1
	39. 5-VII	プレーヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者が、レフェリーのいる方向に向かって用具やその他の物体を投げたり打ったりしたが、接触する寸前までいかなかった場合。	3
	39. 5-IX	選手、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者が、試合中または試合後に、氷上または氷上外で、アリーナおよびその関連施設内のあらゆる場所で、オフィシャルに対して唾を吐いたり、血をぬぐったり、卑猥な言葉や下品な言葉、虐待的なジェスチャーの使用、人種的な中傷や嘲笑、性的な発言をした場合。	10
BOARD	41. 4	レフェリーはプレーヤーが無謀にもボーディングによって相手を危険にさらし、メジャー・ペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0 (2)
CHARG	42. 4	レフェリーはプレーヤーが無謀にもチャージングによって相手を危険にさらし、メジャー・ペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0 (2)
CHE-B	43. 3	レフェリーは自らの裁量により、チェッキング・フロム・ビハインドを犯し、相手プレーヤーを無謀にも危険にさらしたプレーヤーに対して、メジャー+自動的なゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなくてはならない。	1 (3)

ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科せられた選手・役員

反則	条項	反則の内容	自動的な追加処分
CLIP	44. 3	レフェリーはプレーヤーが無謀にもクリッピングによって相手を危険にさらし、マイナー・ペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+自動的なゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0 (2)
ELBOW	45. 4	レフェリーはプレーヤーが無謀にもエルボーイングによって相手を危険にさらし、メジャー・ペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0 (2)
FIGHT	46. 1	少なくとも1名のプレーヤーが相手を何度も殴るか殴ろうとした場合、または2人のプレーヤーが格闘し、ラインパーソンが介入して2人を引き離すことが困難な場合に、ファイティングが起きたとみなした場合。	3
	46. 3	いさかいの『扇動者』。いくつかを行動や態度で示したプレーヤーのこと。最初にグローブを外したこと、最初にパンチを放ったこと、威嚇的な態度や姿勢、言葉での扇動や脅し、以前の試合でのできごとに対する報復行為、以前の試合でのできごとに対する明らかな報復行為。	3
	46. 4	明らかに勝負がついているものの、もはや身を守れないポジションにある相手にダメージを与えようとして、または負傷させようとして、何度も殴り続ける場合には、そのプレーヤーをアグレッションとみなす。いさかいのアグレッションとみなされたプレーヤーには、マイナー・ペナルティ(アグレッション)に加えて、メジャー・ペナルティ(ファイティング)と、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ(2+5+GM)が科される。	3
	46. 5	テープなどを手(手首より下)に付けているプレーヤーが、いさかいの最中に相手を切ったり傷つけたりした場合、この規則により「ファイティング」に対するものを含めた他のペナルティに加えて、マッチ・ペナルティを受ける。 予測していない相手や「戦闘意思のない者/相手」にパンチを与え(すなわち「不意打ちのパンチ」)、負傷させる可能性のあったプレーヤーには、マッチ・ペナルティが科される。	5
	46. 7	すでに進行中のいさかいに最初に介入したプレーヤー(サードプレーヤーイン)には、元のいさかいにマッチ・ペナルティが科せられている場合を除き、レフェリーの裁量により、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科せられるものとする。	3
	46. 9	試合時間外のファイティングに関わったプレーヤーにはメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科すこと。	3
	46. 10	バックをドロップする前のファイティング。通常のフェイスオフの過程でバックをドロップする前に発生したいさかいは、試合開始前またはいずれかのピリオド開始前に起きた場合を除き通常のプレー時間中のものでペナルティを科すこと。	3
	46. 11	「氷面外でのファイティング」や「氷面外」にいる他のプレーヤーとの「ファイティング」に関わったプレーヤーには、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。これらのペナルティは、メジャー・ペナルティ(「ファイティング」)を含めたその他のタイム・ペナルティに加えて科される。コーチまたは他のプレーヤー以外のチームの人員が相手プレーヤーとのいさかいに関わった場合は常に、コーチや他のプレーヤー以外のチームの人員には、氷上か氷上外かにかかわらず、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科され、自動的に試合から退場させられ、更衣室に行くよう命じられる。	3
	H-BUT	47. 3	レフェリーはプレーヤーが無謀にもヘッドバットによって相手を危険にさらした場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。

ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科せられた選手・役員

反則	条項	反則の内容	自動的な追加処分
CHE-H	48. 3	レフェリーはプレーヤーが無謀にもイリーガル・チェック・トゥ・ザ・ヘッド・オア・ネックによって相手を危険にさらした場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。	3 (5)
KICK	49. 3	プレーヤーが相手プレーヤーを「蹴る」または「蹴ろうとする」とレフェリーが判断した場合、レフェリーの裁量により、メジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科す。	5
KNEE	50. 3	レフェリーはプレーヤーが無謀にもニーイングによって相手を危険にさらした場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0 (2)
ROUGH	51. 3	レフェリーは自らの裁量により、ゴールキーパーがブロッキンググローブを使って相手を殴り、その行為が相手の負傷につながる可能性があるならば、そのゴールキーパーにメジャー+自動的なゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科す。	2
SLEW	52. 2	相手プレーヤーにスルー・フットイングをしたプレイヤーは、メジャー+自動的なゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなくてはならない。	3 (5)
THR-EQ	53. 5	競技エリアからスティックまたはその一部、またはその他の物を競技エリア外に故意に投げたプレイヤーは、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。オフィシャルの判定に抗議して行われた場合には、「アンスポーツマンライク・コンダクト」に対するマイナー・ペナルティに加えて、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。	1
	53. 6	レフェリーは自らの裁量により、プレーヤーが相手のプレーヤー、コーチ、またはプレーヤー以外のチームの人員に対してスティックやその他の物、または用具を投げつけ、その行為が相手に負傷を与える可能性がある場合、メジャー+自動的なゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険行為の判定(危険度の評価)は、反則行為の重さと関係する全般的な非難の度合いに基づくものとする。	5
HOOK	55. 3	レフェリーはプレーヤーが無謀にもクリッピングによって相手を危険にさらし、マイナー・ペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+自動的なゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。	0 (2)
INTRF	56. 5	レフェリーはプレーヤーが無謀にもインターフェアランスもしくはレイトヒットによって相手を危険にさらし、メジャー・ペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0 (2)
TRIP	57. 4	レフェリーはプレーヤーが無謀にもトリッピングによって相手を危険にさらし、メジャー・ペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0 (2)
BUT-E	58. 3	レフェリーは自らの裁量により、バット・エンディングを犯したプレイヤーに対して、メジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなければならない。	3 (5)
CROSS	59. 3	レフェリーはプレーヤーが無謀にもクロスチェックングによって相手を危険にさらし、マイナー・ペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0 (2)
HI-ST	60. 4	ハイ・スティッキングの行為で無謀にも相手を危険にさらしたプレイヤーは、マッチ・ペナルティを科される。	5

ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科せられた選手・役員

反則	条項	反則の内容	自動的な追加処分
SLASH	61. 3	レフェリーはプレーヤーが無謀にもスラッシングによって相手を危険にさらし、マイナー・ペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関係する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0 (2)
SPEAR	62. 3	レフェリーは自らの裁量により、スピアリングを犯したプレーヤーに対して、メジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなければならない。	3 (5)
UN-SP	75. 5-I	ミスコンダクト・ペナルティを科されたあらゆる行為をしつこく続けたプレーヤー。	1
	75. 5-II	試合中または試合後に、氷上または氷上以外のあらゆる場所で、卑猥なジェスチャー、人種的な中傷や嘲笑、性的な発言をしたプレーヤー、コーチ、プレーしていないチーム関係者。	5
	75. 5-III	リンク内のあらゆる場所で卑猥な言葉やジェスチャーを使用した場合で、以前にベンチ・マイナー・ペナルティを科されているコーチおよびプレーしていないチーム関係者。	5
	75. 5-IV	選手、コーチ、その他プレーしていないチーム関係者が、コーチやその他プレーしていないチーム関係者に対して、何らかの形で傷害を引き起こす可能性のある行為を行った場合。	5
	75. 5-V	試合終了後、卑猥な言葉やジェスチャーを誰かに向けて行ったプレーヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者。	5
	75. 5-VI	試合中に、対戦相手やリンク内の人に唾を吐いたプレーヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者。	10
	75. 5-VII	出血しているプレーヤーが、故意に体から出た血液を相手またはリンク内の誰かに塗りつけた場合。	10